

近代文学講義

アイデンティティ
—終論—

まず、この詩からはじめよう 🌟

わたしを束ねないで
新川 和江作

わたしを束ねないで
わたしを束ねないで
わたしを束ねないで
わたしを束ねないで
わたしを束ねないで
わたしを束ねないで
わたしを束ねないで
わたしを束ねないで
わたしを束ねないで
わたしを束ねないで
わたしを束ねないで
わたしを束ねないで
わたしを束ねないで
わたしを束ねないで
わたしを束ねないで
わたしを束ねないで
わたしを束ねないで
わたしを束ねないで
わたしを束ねないで
わたしを束ねないで
わたしを束ねないで

わたしは……

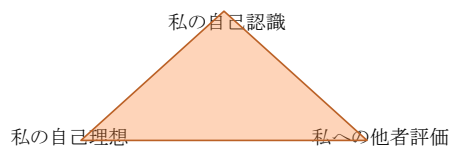
私は……です。

という文章を10個作って、自分を他人に伝えるとしたら、何を書くか？

とりあえず、10つくってみよう。
ただし、一文に沢山のことを盛り込んではいけません。
深く考えてもいいけれど、直感的に

アイデンティティ

私が私を自分で定義すること



青年期は、この3辺の齟齬(食い違い)が大きい

わたしはどこ？

外部



私ではない部分は、**外部**だとすると……
服装や帽子、靴などは、当然…外部…
皮膚は？ 皮膚の内側は？

デカルトの答え

わたしは、皮膚の外部ではない

でも、皮膚の内部でもない

全ての外部存在は、疑うことも、否定することも出来る

でも……

考える、この私…… その存在だけは、疑えない。

デカルトの結論

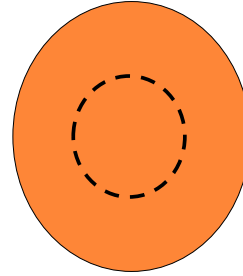
我思う故に我あり
Cogito Ergo Sum
『方法序説』

身体を含め全てを疑っても、それを思考している自分自身の存在は疑えない

この考え方は、ただの哲学なわけじゃない

現代科学や現代医学の基礎的な考えになっている

私ができるまで

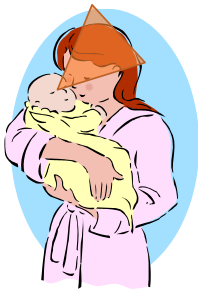


私は、
視界の世界など感覚で感じられる世界と、
自分との境界がない。

世界=自分

理由は、
自分を見たことないから

私ができるまで



①赤ん坊は、「欲望」が直結するものしか関心がない

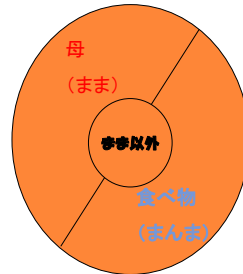
ママ(母)

マンマ(食)

パパ(排泄)

②さらに、見える世界しかない
(自分は見えない)

私ができるまで

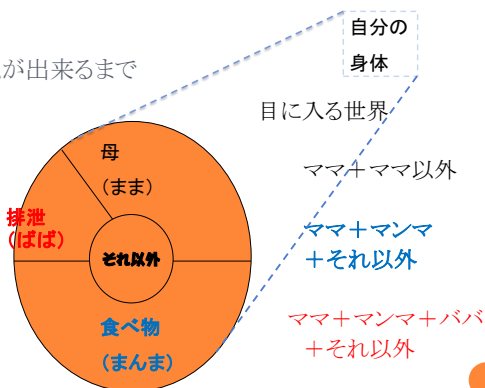


目に入る世界で…

母=欲望の対象
欲望が自由にならない
母

食べ物=欲望の対象
欲望が自由にならない
食べ物(乳房)

私ができるまで



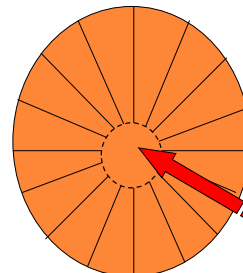
目に入る世界

ママ+ママ以外

ママ+マンマ
+それ以外

ママ+マンマ+パパ
+それ以外

私ができるまで



世界は
どんどん
細分化されてゆく

どれもでない部分
それが「わたし」

まとめ

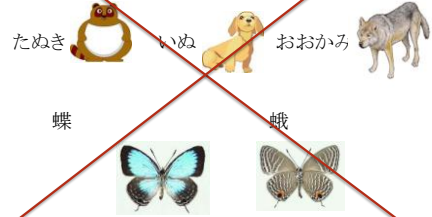
- ①、言語とは、記号で世界を分けるものだ
- ②、分けられる前の世界は一つだ
- ③、分けた時に余った部分が「わたし」だ

④、だから、私の中身は実はからっぽだ

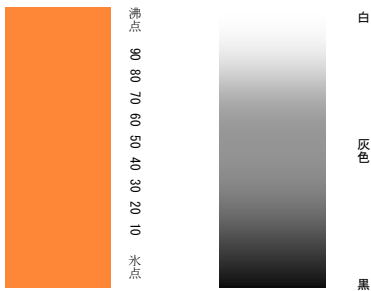
私捜しとは、哲学的には無理な命題！

言語名称目録観

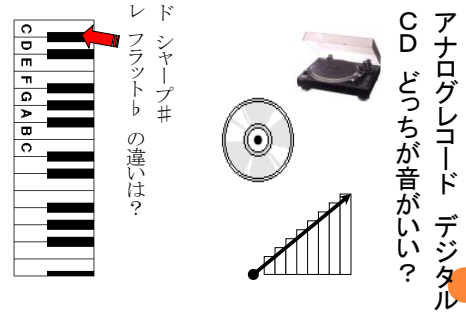
世界は、先に存在していて、そこに名前を付けてはくのが人間



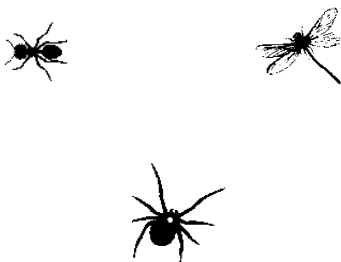
境目ってわかる？



違いがわかる？

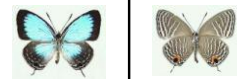


この虫たちの何処に線をひく？



言語が連続を区分する

日本語



英語

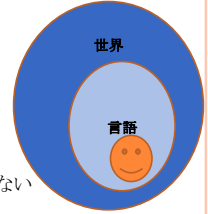


言語が連続を区分する

露語			
日本語	たぬき	いぬ	おおかみ
仏語			

まとめ

- ①、記号で連続した世界を分割する
(アナログ) (デジタル)
- ②、言語も記号の一種である
- ③、分割した世界しか我々は認識出来ない
- ④、分割の仕方が、我々の世界像
言語が違えば、世界も違う
EX 虫と鳥と我々は、世界が違う



つまり

我々は、記号(言語)
に支配されている。

無理な宿題

「海と太陽の教室」

神奈川県・湘南の高等学校に赴任した型破りな教師、櫻井朔太郎(織田裕二)と高校3年生の生徒たちを中心にストーリーを展開していく。

月9の学園ドラマは浅野ゆう子主演の『学校へ行こう!』(1991年4月期)以来17年ぶりで、織田裕二の月9主演は『ラストクリスマス』(2004年10月期)以来3年3か月ぶりとなる。また、織田は『冗談じゃない!』(2007年4月期、TBS)以来1年ぶりの連続ドラマ出演である。

キャッチコピーは、

「ボクらの常識を超えないでください、先生。」

だから

我々のアイデンティティも、
記号(言語)
に支配されている。

言語を通じて我々を支配するもの

